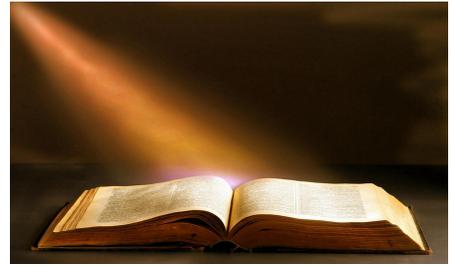
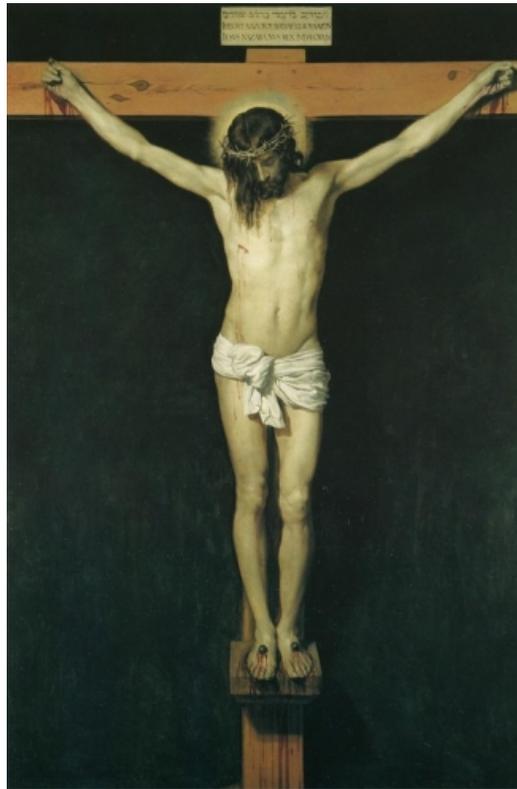


- 「小福音」
- 「福音のミニチュア」
- 「黄金の聖句の代表」
- 「万人の聖句」
- 「聖書の中の聖書」



ヨハネによる福音書 3 章 10～21 節

「神は、その独り子を・・・」



ベラスケス「キリストの磔刑」

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(16)

本当に愛するとは、相手のために自分の命を捧げて死ぬことだろうと思うよ。

イエス様は、愛する者のために死なれたぞ。

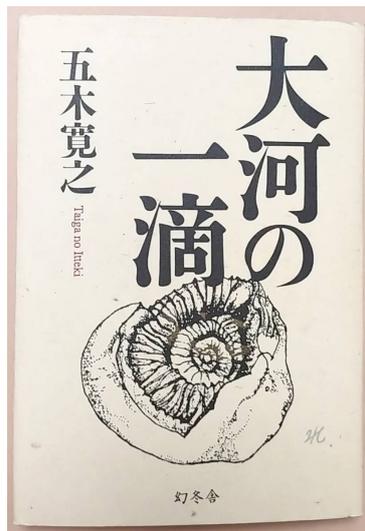
——牧師の言葉

<悲>はサンスクリットで<カルナー>といい、ため息、呻き声^{うめ ごえ}のことです。・・・その人になりかわることができない。そのことがつらくて、思わず体の底から「ああー」という呻き声を発する。その呻き声がカルナーです。それを中国人は<悲>と訳しました。

仮にオウム事件のようなことがあって、息子が刑に服することになったとしましょう。・・・古風な母親であったらどうか。「なぜこんなことになったの？ これからどうするの？」などと、問いつめるようなことはいっさい言わないだろう。ただ黙って、そばで涙を流して 息子の顔を見つめているだけかもしれない。おまえがもしも地獄に墮^おちていくんだったら 自分も一緒についていくよ、という気持ちで手に手を重ねてうなだれているかもしれない。

じつは こうしたことが人間の心の底にいちばん届くのです。がんばれと言っても効かないギリギリの立場の人間は、それでしか救われない。それを<悲>といいます。

— 自ら命を絶^{みづか}つ人々が1988年に年間3万人を超えたのを危惧して 一万人ちょっとの人びとが一年間に亡くなって、それを<交通戦争>と呼ぶのなら、〔これを〕いったい、何戦争と呼べばいいのか。



私が耐えられなくて、憤りさえ感じたのは、「今は辛い^{つら}かもしれないけど、時間が解決するから」と、人の悲しみの深さも分からずに、安っぽい慰めの言葉をかけられたときです。・・・愛する者を失った傷^{うず}というのは、時間が経てば経つほど、かえって深く重く疼^{うず}くんです。

— 愛息を失った一女性の言葉



レンブラント「放蕩息子の帰還」

父親は僕^{しもべ}たちに言った。

「急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物^{はきもの}を履かせなさい。それから・・・食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ」

(ルカ 15:22～24)

アウレリウス・アウグスチヌス

ヒッポのアウグスチヌス

354～430年

古代の神学者、思想家。

キリスト教界のみならず、後の西欧世界全体に大きな思想的影響を与えた。

神は、私たちの一人ひとりを、あたかもただ一人だけを愛するかのよう^にに愛したもう。

今もなお 変わることなく、
人は自分で自分に値札を付けている。

銀貨 30 枚で ユダは売った、
キリストをではなく、自分自身を。

— 示唆に富む信仰の言葉

(銀貨 30 枚で主イエスを売ったイスカリオテのユダを詠んで)

太陽が日の光を注ぐのは、本来、影をつくるためではない。だが、それが光を通さない不透明なものに当たると、いや応なく、影が生まれる。・・・「神の独り子が与えられた」ということと「裁きが存する」ということも、これと似ている。神が御子を世に遣わされたのは、御子によって世が救われるためである。しかし、光が射すとき、そこにはいや応なく、影が生まれる。

——聖書学者の言葉



信じない者は既に裁かれている。(18)

光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。

それが、もう裁きになっている。(19)

光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。(口語訳)

光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。(新共同訳)

(ヨハネ 1:5)